

平和

読谷小学校六年二組

外間

音色

私は、パソコン・インターネットや体験者から戦争の話を聞いたり、調べたりしました。そして、戦争の恐ろしさや、悲惨さなどを知りました。終戦から七十五年が経った今、戦争体験者が少なくなっているを知り、今話をきいて戦争を繰り返してはいけないことや、悲惨さや恐ろしさを伝えていけたらいいなと思います。

1
小学校で戦争体験者の上原はつ子さんと吉川初枝さんが戦争のことを話してくれました。はつ子さんと初枝さんは、でいご学徒隊だったそうです。読谷小学校の校歌をつくった、八巻太一さんの教え子だそうです。吉川さんは、戦争で弟が亡くなった。と話していました。その弟をお母さんは、土をほってうめたそうです。私は、泣きながら話してくれていた吉川さんは、とても勇気が

あつて、それだけ戦争の悲惨さや悲しみ、恐
 しさを知つてもらい、戦争は二度とやつては
 いけないことを伝えたいという想いが伝わり
 ました。

私は、戦争の体験者から話を聞く以外に、
 自分でパソコシのインターネットを使い、調
 べてみました。すると千ビチリがマで一、九四
 五年四月二日に肉親相互が殺しあうという、

「集団自決」が行われ、一、四十人中八十三人
 が自決をしたのに対し、シムクがマは、ハワ

イからの帰国者比嘉平治さんと比嘉平三さん
 がひなん者を説得させ、一千人前後の命が助か
 ったと知り、この二人は一千人の命を助けて、
 本当にすごいなと思ひました。六月二十日前
 後には日本軍の組織的抵抗はほとんどなくな
 り、やかで六月二十二日、二十三日しに、牛

島満軍司令官と長勇参謀長が摩文仁岳中腹の
 司令部壕内で自決したことがかかれてありま
 した。私は、自決をしないで戦争をやめる方
 法があつたかもしれないのに、どうして自決

をしたのがなと思ひました。

私は、戦争体験者から話を聞いたリ、インターネットで調べて、戦争は本当に恐しいことや、悲惨さを知りました。だからずっと平和でいられたらいいのと思ひました。私は、今、自分にできることは、友達と仲よくしたり、家族と仲よくすることです。これはからは平和の事を考えられるようになりたいです。